

参加者の感想（抜粋）

○ 中日国交正常化 45 周年となる 2017 年に中国社会科学院青年研究者代表团に参加できたことは、私にとって非常に意義のあることだ。これまで日本への旅行を計画したことがあり、日本へ行ったことがある友人に日本について話を聞いたこともあるが、ずっと良い訪日の機会がなかったのが、今回の代表团はいいチャンスだった。8 日間の日程で東京、京都、大阪の 3 都市を訪れ、グリーン経済というテーマのもと、大学院や研究所、同テーマに取り組んでいる代表的な企業を訪問でき、収穫の多い旅になった。

日本滞在中で気づいたことを携帯にたくさんメモしている。日本人の教養の高さとマナーの良さは、確かに私たちが学ぶべきところだ。例を挙げると、公共の場所ではがやがや騒いでいる人がいない、ポイ捨てをしない、痰を吐くなど悪しき習慣がない、コンビニやスーパーのレジ、地下鉄のホームではきちんと並ぶ。いずれにおいても個人の空間を大切に、秩序が保たれているのだ。車の運転もマナーが良く、クラクションの音を聞くこともなければ、割り込みをする車を全く見かけなかったことも驚きだった。

グリーン経済の発展については、企業の取り組みでいうと、京セラのハイレベルな汚水排出の仕組みが印象に残っている。芝浦水再生センターの汚水処理と資源の再利用の方法、周辺環境の改善、省エネ・二酸化炭素排出量を削減したオフィスビルは、参考にできるものばかりだ。また、代表的な産業研究機関として、排出削減した二酸化炭素の貯留やバイオテクノロジーに力を入れている地球環境産業技術研究機構を訪問した。大規模な資金の投入は、グリーン経済の発展に対する日本政府の強い決意と自信の表れである。一般市民の方々と触れあうことのできた生活の分野では、水に溶けるトイレトーパーや低排出ガス車、ホテルの入り口に設置された傘袋の器械などが印象的だった。日本は技術開発や環境保護の意識において、いろいろなところで進んでいると言える。

中日は友好的な隣人だ。小異を残して大同に就き、ともに学び合い、発展していくべきであり、これこそ両国がともに抱いているビジョンだ。

機会があればもう一度日本に来たい。日中友好会館のもてなしに感謝する。

○ 中日国交正常化 45 周年のこの年に、幸い今回の訪問団に参加することができ、東京大学、京都大学、環境省、東京都下水道局の施設を訪れて、友好的に学術面や経験値の交流を行った。中国は発展途上の国として、多くの分野で日本に学ぶ必要がある。例えば、都市の下水道システムの計画・建設や、都市の環境汚染対策、厳格かつ実現可能性のある関連の政策・法律の制定などである。これらの分野は私自身が従事している建設工学と都市計画という専門分野と関係があり、これからの仕事にとってとても良い参考になった。しかし、中国の発展途上の国情と、工業化のプロセスが完了した日本の国情では違いがある。例えば、中国では、老朽化した建築物には改築や修繕を施して一新させるのが普通だが、日本は地震が多いため、古い建物は取り壊してから再建する方法が一般的だ。両国のやり方にはそれぞれ利点と欠点があるが、国情に

合わせて策を決めている。中日両国の建築分野での交流が盛んになり、互いに補い合  
って発展していくことを願う。今回の訪問で印象的だったのは、日本の建築物の耐震  
措置だ。中国の建築設計業界も参考にできると思う。

○ 一週間の日本訪問が終わろうとしている。日本側が手配してくれた学术交流と視  
察を通して、日本の経済や社会の発展（特にグリーン経済とエネルギー戦略）について  
認識と理解を新たにした。日本はエネルギー供給構造の調整を進めており、環境整備  
やグリーン経済の推進において、我々が学ぶべき進んだ理念と経験を持っている。

私自身の研究分野と結びつけると、IT 技術の急速な発達にともない、グリーン経済  
の概念や範囲も拡大している。インターネット産業の発展が、ある程度現在の経済発  
展モデルに影響を与えて、経済構造の転換を促進しているのだ。日本側との交流を通  
じて、日本の IT 技術の応用は比較的進んでいることがわかった。特に、地球環境産業  
技術研究機構が行っている IT 技術を用いた CO2 排出の研究が強く印象に残っている。

今回の日本訪問は、非常に印象深く、実りの多いものだった。帰国したら、引き続  
き関連の研究を進めたい。日本側の専門家たちとこれからも交流を続け、いつか一緒  
に研究する機会があれば良いと思っている。

○ 大学院の研究がとても高度だ。有名な東京大学と京都大学を訪問し、日本の最高  
学府が研究している分野と最新の研究内容を知ることができ、学術研究の分野で大き  
な収穫があった。

グリーン経済についても、日本は最先端の技術を数多く有している。下水処理施設  
や専門研究機関を訪問した。多くの先進技術を持っている日本だが、取り組みへの着  
手も早く、高度経済成長期に発生した環境汚染問題をよく解決できていると思った。  
中国が日本から学べる部分がたくさんある。

最後に、文化伝統の保護について。日本は積極的に日本固有の文化を守り、さら  
にそれを活用することで、効果的な文化伝承を推進している。これも中国が参考にすべ  
き点だ。

○ 日本のグリーン経済は企業レベルでの推進に成功している。大企業が積極的に規  
定のレベルを上回る対策をとっており、環境を犠牲にすることなく、企業の生産力を  
守っている。日本企業の社会的責任感を示し、社会全体のグリーン経済への組み  
の悪い模範となっている。日本政府による環境保護政策と法律は、ある特定の分野  
において、企業のグリーン化の取り組みに後れをとっている。日本の民間企業の環境保  
護意識は高く、日本国民についても、ゴミ分別のやり方などから、その意識の高さ  
が見て取れる。日本の社会はグリーン経済や環境保護の実現に向けて「下から上へ」努  
力するある種のモデルとなっている。中国が学ぶべき取り組みがたくさんある。